

新鍛冶川排水区大規模雨水処理施設整備事業計画（富山市）

（様式１）

項 目	内 容 ・ 施 策 等
選定理由	新鍛冶川排水区は、昭和４０年代から都市下水路事業にて雨水整備を行ってきたところではあるが、都市化の進展により、雨水流出量が増加し、平成１６年には集中豪雨により、床上浸水戸数１７戸、延べ浸水戸数４５戸の浸水被害が発生したことから、早急な浸水対策が急務である。
整備目標	① 本計画における対象降雨 ・ 本計画におけるハード・ソフト含めた対象降雨：75mm/hr ・ 目標とする理由：昭和４５年８月に記録した既往最大降雨 ・ ハード整備による整備水準の目標：49mm/h（1/5確率降雨） ②目標設定 i) 生命の保護の観点：当該排水区の家屋の床上浸水を防止する。 ii) 都市機能の確保の観点：交通の支障となるような冠水を防止する。 iii) 個人財産の保護の観点：当該排水区の家屋の床上浸水を防止する。 iv) その他：特になし ③ハード対策，ソフト対策及び自助の役割分担について i) ハード対策 施設整備により 49mm/h（1/5 確率）の降雨において浸水被害を防止することを目的とする。 ii) ソフト対策及び自助 施設整備で対象とする降雨量を上回る既往最大降雨 75mm/h の降雨において、下水道管理者による内水ハザードマップの作成や雨水幹線の水位情報の提供、地域住民による止水板設置など、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ軽減する。

項 目	内 容 ・ 施 策 等			
内水ハザードマップ策定状況	・ 有（平成 年 月 日策定済み） ・ 策定予定（令和7年3月末策定予定）			
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・ 雨水貯留施設の整備 貯留能力1, 200m ³
			下水道管理者以外	・ グランド貯留の整備（建設部河川整備課）貯留量900m ³
		ソフト対策	下水道管理者	・ 内水ハザードマップの作成 ・ 水位観測情報の提供
			下水道管理者以外	・ 自主防災組織への活動支援（建設部防災対策課）
	自助	ハード対策		・ 止水板の設置21箇所
		ソフト対策		・ 自主訓練（自主防災組織10組織）

備考）事業内容については主な施策について具体的な実施数量を記述

また、下水道管理者以外が行う施策については、道路管理者など実施主体、制度要綱等を具体的に記述

- * 下水道浸水被害軽減総合事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設をすべて記載すること（別紙可、下水道浸水被害軽減総合事業の様式を参照）。なお、下水道浸水被害軽減総合計画を策定済みの場合は、その施設調書を添付すること。
- * 下水道総合地震対策事業の要件に該当し、当該事業による制度拡充にあたる施設の整備を実施する場合には、該当する施設整備を総合地震対策計画に位置づけること。
- * 下水道施設の改築（浸水に対する安全度の向上を伴わないもの）を実施する場合には、当該施設の改築を下水道ストックマネジメント計画に位置づけること。（総合地震対策計画に位置づけられている場合を除く）

年度計画（百万円）

名称	令和4年度	令和5年度	令和6年度	計
雨水貯留施設	585	210	45	840
計	585	210	45	840

備考）事業内容に位置づけた施設について年割額（事業費）を記述。

整備済のものは含めない。

項 目	内 容 ・ 施 策 等
整備効果	<事業評価の内容> 浸水被害の軽減便益：５，９１７．５百万円が削減される。 B／C：１．６５ 経済的内部収益率：８．２％
放流先河川との調整状況	最終的な放流先である、準用河川新鍛冶川への流出量を既存の流下能力である１９．３m³／s以下とするため、流出抑制施設の整備を行い、流域での浸水被害の軽減を図る。
その他	

(参考図面)

1. 使用図面

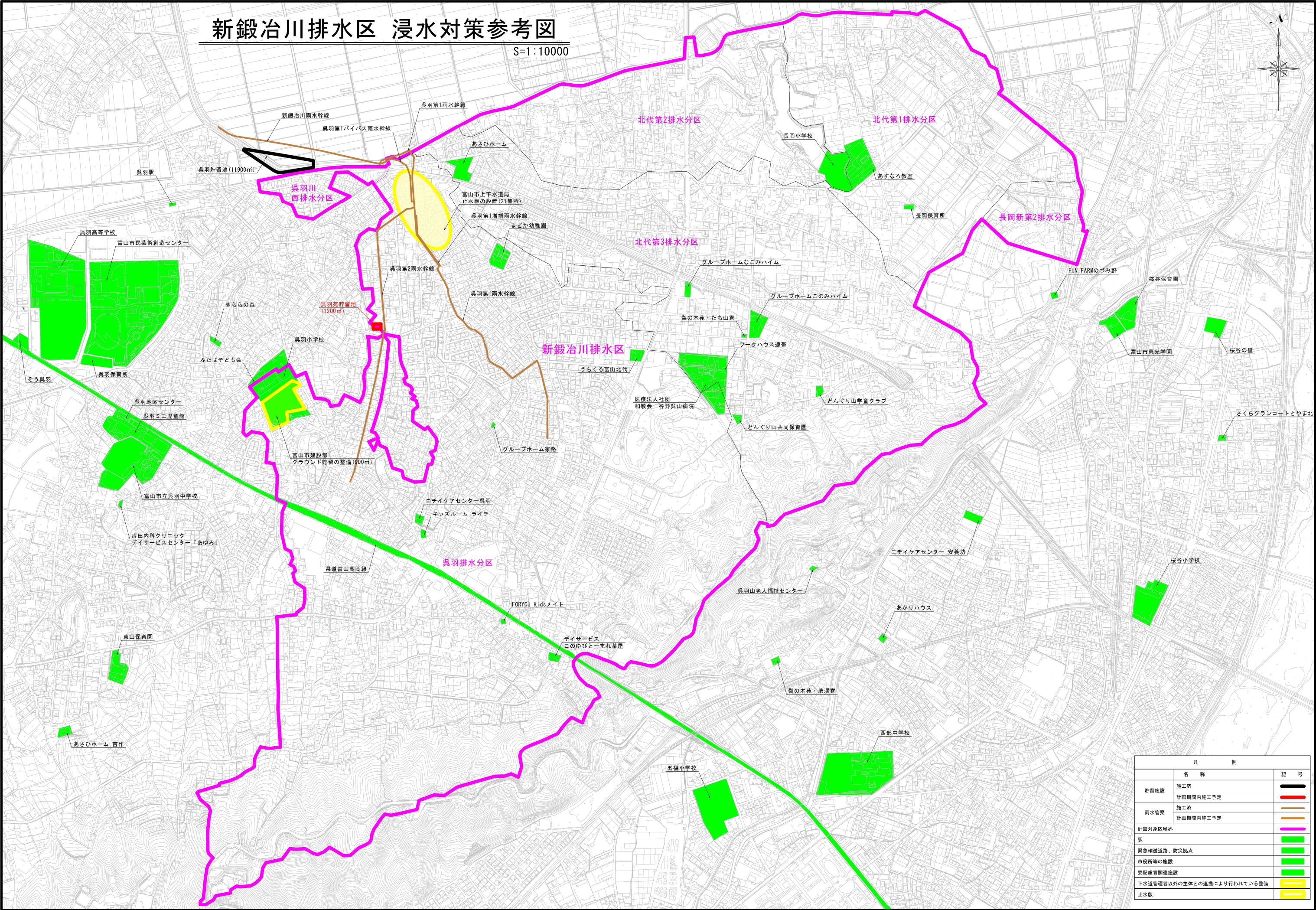
5,000～10,000 分の 1 程度で計画内容がわかるようにする。

2. 図面記載内容 *あくまで記載方法の一例である。

記載内容	色別	適用
貯留施設 施工済 計画期間内施工予定 集水区域	黒 赤 青	貯留施設を 2～3mm の実践で書く。 施設名を記入。 集水区域を 5mm 幅程度で囲む。施工済の場合 は黒で全体を薄く塗りつぶす。
浸透施設 施工済 計画期間内施工予定 整備区域	黒 赤 青	対象区域を 5mm 幅程度で囲む。 施設名を記入。 対象区域を 5mm 幅程度で囲む。
ポンプ施設 施工済 計画期間内施工予定	黒 赤	直径 5mm の円に P で表現。 色で塗りつぶす。
雨水又は合流管渠 施工済 計画期間内施工予定	茶 橙	昭和 46 年 10 月 9 日付建設省告示第 1705 号 の別表に定める基準に適合する管渠を 1mm の実線で書く。 管渠名を記入。
計画対象区域界	桃	2mm の実線。
① 駅	緑	色で塗りつぶす。 施設名を記入。
② 災害対策基本法に基づく地域防災計画に位置付けられた施設(緊急輸送道路, 防災拠点等)		
③ 国の防災関係機関や県庁, 市役所等の施設		
④ 高齢者・障害者等要配慮者関連施設		
⑤ 床上浸水被害の未解消地区	水色	水色で全体を薄く塗りつぶす。
⑥ 下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備	黄色	黄色で全体を薄く塗りつぶし, 事業主体と事業名を記載。
⑦ 防水ゲート, 止水板又は逆流防止施設		
⑧ 各戸貯留浸透施設		

新鍛冶川排水区 浸水対策参考図

S=1:10000



凡 例		
	名 称	記 号
貯留施設	施工済	—
	計画期間内施工予定	—
雨水管渠	施工済	—
	計画期間内施工予定	—
計画対象区域界		—
駅		■
緊急輸送道路、防災拠点		■
市役所等の施設		■
要配慮者関連施設		■
下水道管理者以外の主体との連携により行われている整備		■
止水版		■